

1 単元名・教材名 「Can you do this?～自分のことを今年来られた先生方に紹介しよう～」
『Junior Sunshine 5』 Lesson 4 「Can you do this?プロフィールカードを作ろう」

2 単元の目標

- 自分や家族の「できること、できないこと」の言い方を理解することができる。また、小文字の形の特徴や違いに気付くことができる。 (知識・技能)
- 自分の「できること、できないこと」を発表することができる。 (思考力・判断力・表現力)
- 他者に配慮しながら、自分の「できること、できないこと」を発表しようとする。
(主体的に学習に取り組む態度)

3 関連する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	ウ 動作などの表現や、友達や先生の「できること、できないこと」についての話を聞いて、理解することができる。
読むこと	ア 文字には「音読み」があることを理解し、活字体の小文字を識別したり、「名称読み」で発音したりすることができる。
話すこと(やりとり)	イ 「できること、できないこと」について伝え合い、発表することができる。
書くこと	イ 活字体の小文字を、高さや形の違いに気をつけて書くことができる。

4 単元の評価規準 ※記録を残す評価

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<p>〈知識〉 I/He/She can～. Can you～? など、自分や相手、第三者ができることやできないことを表す表現やその尋ね方、答え方について理解している。</p> <p>〈技能〉 I/He/She can～. Can you～? など、自分や相手、第三者ができることやできないことを表す表現などを聞き取る技能を身に付けている。</p>	<p>登場人物や相手がどんな人かを理解するために、名前やできること、できないことなどについて話されるのを聞いて、その概要を捉えている。</p>	<p>登場人物や相手がどんな人かを理解するために、簡単な語句や基本的な表現を用いて名前やできることなどを聞こうとしている。</p>
読むこと	<p>〈知識〉 活字体のアルファベットやヘボン式ローマ字で書かれた語句について理解している。</p> <p>〈技能〉 活字体のアルファベットやヘボン式ローマ字で書かれた語句を識別したり、その読み方を発音したりする技能を身に付けている。</p>	<p>活字体のアルファベットで自分のできることを書くために、アルファベットを発音したり、必要な文字を探して組み合わせて声に出して読んだりしている。</p>	<p>活字体のアルファベットで自分のできることを書くために、アルファベットを発音したり、必要な文字を探して組み合わせて声に出して読んだりしようとしている。</p>
話すこと(やりとり)	<p>〈知識〉 I/He/She can～. Can you～? など、自分や相手、第三者ができることやできないことを表す表現やその尋ね方、答え方について理解している。</p> <p>〈技能〉 I/He/She can～. Can you～? など、自分や相手、第三者ができることやできないことを表す表現などを用いて、自分の考えや気持ちなどを含めて話す技能を身に付けている。</p>	<p>相手に自分や第三者のことをよく知ってもらうために、自分や第三者ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて話している。</p>	<p>相手に自分や第三者のことをよく知ってもらうために、自分や第三者ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて話そうとしている。</p>

書くこと	<p>〈知識〉活字体のアルファベットについて理解している。</p> <p>〈技能〉活字体のアルファベットを書いたり、ヘボン式ローマ字で自分のできることを書いたりする技能を身に付けている。</p>	<p>プロフィールカードを作るために、活字体のアルファベットを、4線の正しい位置に書いている。</p>	<p>プロフィールカードを作るために、活字体のアルファベットを、4線の正しい位置に書こうとしている。</p>
------	---	---	--

5 単元の指導と評価の計画（6時間）

時	目標◆・活動○【】	評価			
		知 技	思 判 表	態 度	評価規準〈評価方法〉
1	<p>◆can を使う場面を聞いて、英語で「できること、できないこと」の言い方を理解することができる。</p> <p>○Small Talk</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任、ALT の自己紹介を聞き、本時のめあてをつかむ。 <p>【Let's Listen1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に出てくる新藤先生とブラウン先生のできることを聞き、おおよその内容をつかむ。 <p>○単元のゴールをつかむ。</p> <p>【Let's Play1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイモンセズ 		聞		I can~.などの表現について理解している。〈行動観察〉
2	<p>◆動作を表す表現を、「できること、できないこと」の表現とつなげて理解することができる。</p> <p>○Small Talk</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェスチャーゲーム <p>○名刺を見て、本時のめあてをつかむ。</p> <p>【Let's listen2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物が「できること、できないこと」を聞く。 ・3つのヒントを聞いて、どの動物かを考える。 <p>【Let's Play2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動作を表す表現を見て、can を使った表現を4線上に書き込む。 	書	聞	聞	<p>「できること、できないこと」の表現を聞いて、理解することができる。〈書き込み点検〉</p> <p>I can~を使った表現を4線上に正しく書くことができる。</p>
3	<p>◆can, can't を使って「できること、できないこと」を表現することができる。</p> <p>○Small Talk</p> <p>【Let's Listen3】【Let's Listen4】</p> <p>【Let's Play3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことについて、can を使って3つのヒントを作る。そのうち1つは本当でないことにして、お互いに Can you~? を使って本当でないことを当て、can, can't の表現に慣れ親しむ。 <p>【Let's Play4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人グループで、友達や有名人などの「できること、できないこと」を3つ考える。 ・スリーヒントとし、お互いにクイズを出し合って、can, can't の表現に慣れ親しむ。 	発	読	読	<p>「自分のできること、できないこと」を伝え合うことができる。〈行動観察〉</p> <p>動物などの「できること、できないこと」を伝え合うことができる。〈行動観察〉</p> <p>can~を使った表現を正しく読むことができる。〈行動観察〉</p>
4	<p>◆プロフィールカード作りを通して、自分の「できること」を発表する練習をする。</p> <p>○Small Talk</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェスチャーゲーム <p>○プロフィールカードを使ったデモンストレーションを見て、本時のめあてをつかむ。</p>				自分の好きなことやできることについて、発表することができる。〈行動観察〉

	<p>○プロフィールカードを作り，自分ができることについて発表する。（4線上に書く）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・like を交え，can を使って自分ができることを，合わせて2つ考える。 	読	話	書	<p>自分の好きなことやできることについて，進んで書こうとしている。〈行動観察〉</p> <p>アルファベットで書いたプロフィールカードを読んでいる。 〈行動観察〉</p>
5 本 時	<p>◆自分のできることを先生方や友達に発表する発表会をしよう。</p> <p>○Small Talk</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェスチャーゲーム <p>○プロフィールカードを使ったデモンストレーションを見て，本時のめあてをつかむ。</p> <p>○楽しい発表会にするにはどうすればよいか考える。</p> <p>○カードや実物を使って，自分のできることを発表する。</p>	や	や	や	<p>自分のできることを表す表現について理解している。 〈行動観察〉</p> <p>相手意識をもち，カードや実物も使いながら，自分のできることを発表している。〈行動観察〉</p>
6	<p>◆活字体の小文字について，特に形（高さ）の違いに注意して正しく書くことができる。</p> <p>【Let's Sing】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Jingle1 を歌う。 <p>○P89 1 2 3 に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の中の小文字を探したり，4線上に小文字を正しく書いたりする。 	書	書	書	<p>小文字の形に気をつけて，発音したり書いたりできる。 〈書き込み点検〉</p> <p>文字の高さの違いを理解し，それぞれの高さに合った小文字を選んで書くことができる。 〈書き込み点検〉</p>

6 指導上の立場

(1) 単元観

本単元は，5年生の英語学習の最初の単元である「名刺交換をしよう」という学習の応用編になる。今年来られた先生方に英語で自分のできることを発表するという単元ゴールの言語活動を設定することで，必然性をもって英語での自己紹介活動に取り組むことができるであろう。また，その際に実物を使って発表することで，自分のできることをもっとうまく伝えたいという意欲をもつことができるようになる。また，プロフィールカードを書く活動を取り入れることで，4年生までの英語学習で慣れ親しんだアルファベットを想起させるとともに，自分の名前だけでなく，can を使った表現を書いたり，友達の書いた表現を読んだりすることに慣れさせたい。また，単元を通して，自分のことを伝える相手を，互いによく知っている友達から今年来られた先生方へと広げていくことで，相手によって，伝えたいことや聞きたいことも変わっていくことに気付き，語彙を広げることができるようにする。そして，自分のことだけを一方的に伝えるだけではなく，相手に配慮したやり取りについても考える場面を設定し，英語での挨拶や受け答えの表現についても触れることができるようにする。

アルファベットの学習では，帯活動としてではなく，単元の前半でチャンツやゲームをしながら形や音を想起させたり，大文字，小文字ともに文字の形を確認しながらひととおり書いたりして復習する。また，プロフィールカード作成のための時間も確保し，相手にとって正しく読みやすい形で書こうとする意欲を導き，手本をもとにして4線上に正確な大文字や小文字のアルファベットを書くことができるように支援する。

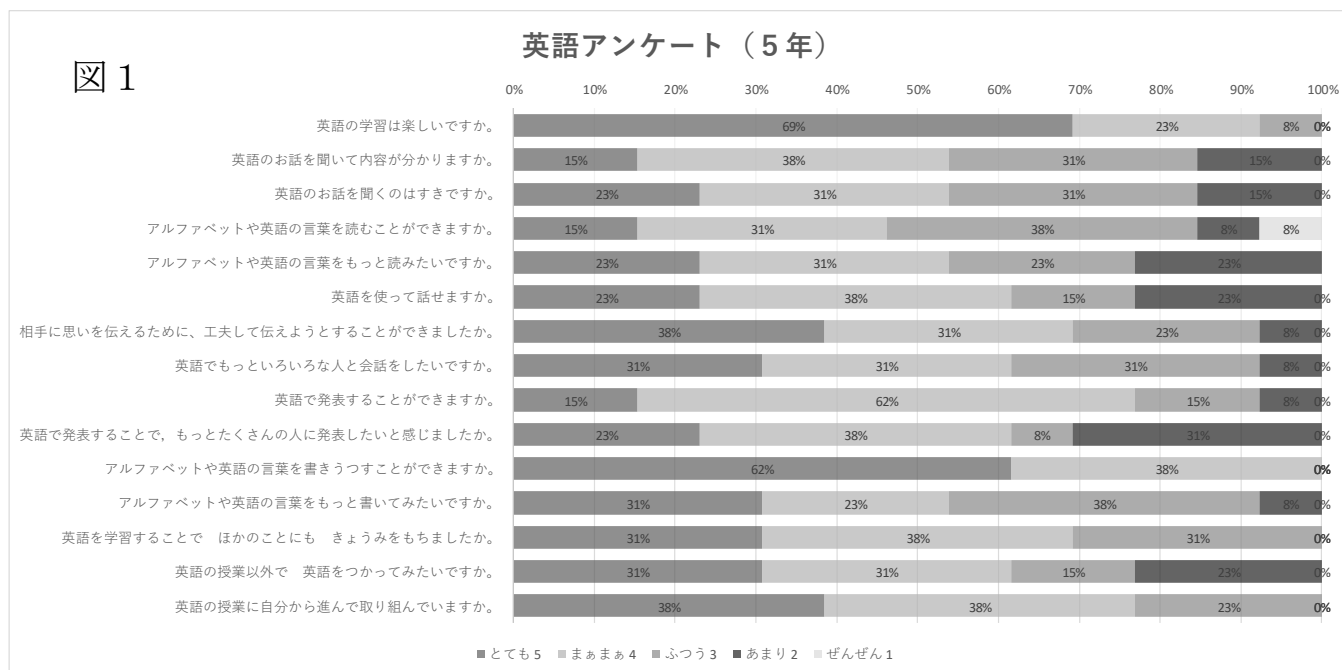
(2) 児童観（男子6名 女子7名 計13名）

今年度5月に行った英語アンケートでは，「英語の勉強が楽しいですか」に対して92%の児童が肯定的な回答を示していて，英語の学習に意欲的に取り組んできたことがうかがえる。しかし，「アルファベットや英語をもっと読みたいですか」「英語を使ってもっとたくさんの人に発表したいですか」という質問に対しては，約30%の児童が否定的な回答を示している。

そこで本単元では，児童が自信をもって自分のことを伝え，英語で発表することの楽しさをもっと感じることができるようにしたい。そのために，これまで慣れ親しんだ自己紹介の表現やアルファベットを，チャ

ンツやゲームで想起させ、活用するとともに、自分のできることを紹介するための表現を習得できるようにする。今年来られた先生方に、自分のできることを発表することが単元のゴールであることから、相手意識をもって、自分の思いを言葉や文字、動作で伝えることができると思う。新たに出会った人と英語でつながる楽しさを味わうことで、英語学習への意欲やもっといろいろな人と関わっていききたいという思いが高まる姿を期待する。

書くことに関しては、肯定的に捉えることができている児童が多い。そのため、この単元ではより難易度を上げ、プロフィールカードを使った自分のできることを発表する場を設けることで、書くことに必然性をもたせ、さらに意欲的にたくさんの英単語を、自信をもって書くことができる児童を増やしていきたい。



※図1：今年度5月に行ったアンケート結果

(3) 研究主題との関わり

本校の研究主題は「自分の思いや考えを伝え合い、地域や世界とつながろうとする児童の育成～本物で必然性のある外国語活動・外国語科を通して～」であり、本校の考える仮説についての基本的な考え方は、次の3つである。

仮説

- 1 単元や発達段階の特性を踏まえて言語活動を工夫することにより、児童は、自分の思いや考えをもち、それを伝え合おうとするであろう。
- 2 1単位時間または単元の中で、児童自身による評価（振り返り）や教師による評価を適切に行うことによって、児童は思考力・表現力・判断力を高めながら学習に取り組むであろう。
- 3 学びのつながりを意識して、様々な人々と関わるができる単元（新本オリジナル）を構成することで、英語によるコミュニケーションの楽しさを味わい、より広い世界に目を向けるであろう。

1 について

Warming up では、ジェスチャーゲームの言語活動を取り入れる。このゲームを通して、言葉だけでなくジェスチャーも思いを伝えるための大切な手段であることに気付いたり、何とかしてコミュニケーション

を図ろうとする力を養ったりすることができるようにしたい。単元前半の Activity では、チャンツやゲームを多く取り入れ、楽しみながら既習事項を想起できるようにする。単元後半では、指導者によるデモンストレーションによって、めあてをつかみ、自分のできることの紹介に向けて、どのように伝えるのがよいかという自分の考えを広げていくことができるような言語活動を取り入れる。文字指導では、カードを作るという書く必然性のもとで、自分が伝えたい情報について、手本を見ながら4線上に正しく書くことを目指す。

本時では、ペアで自分のできることを紹介し合ったあとで中間交流の場を設け、相手が初めて会う人の場合は、さらに付け加えることができる工夫はないかを話し合う。そうすることで、自分の思いや考えがこめられた発表の場になるようにしたい。

2) について

毎回の授業の時間で全てを見取るのではなく、単元のまとまりの中で学習内容と評価の場面を適切に組み立てていくことができるようにするため、単元を通した評価の計画を立てている。この評価規準と評価の計画を活用することで、児童の学習状況を的確に捉え、教師の指導改善につなげることができるようにする。担任、ALT が同じ場面、同じ評価規準で児童を評価することで、個々の児童の達成状況に応じたより適切な支援ができると考える。本単元では、「話すこと [やりとり]」に焦点を置き、記録に残す評価を行う。

児童は、単元に入る前に、教科書裏表紙の CAN-DO マップで、単元終了後に達成すべき自分の姿を確認する。1年間単元が終わるごとに英語を使って「できた」ことを振り返り、その積み重ねを自信にして、6年生への学びにつなげられるようにする。また、授業後に達成度を振り返ることで、できたことと次にがんばりたいことを自覚できるようにする。そうすることで、児童の思考力・表現力・判断力を高められると考える。

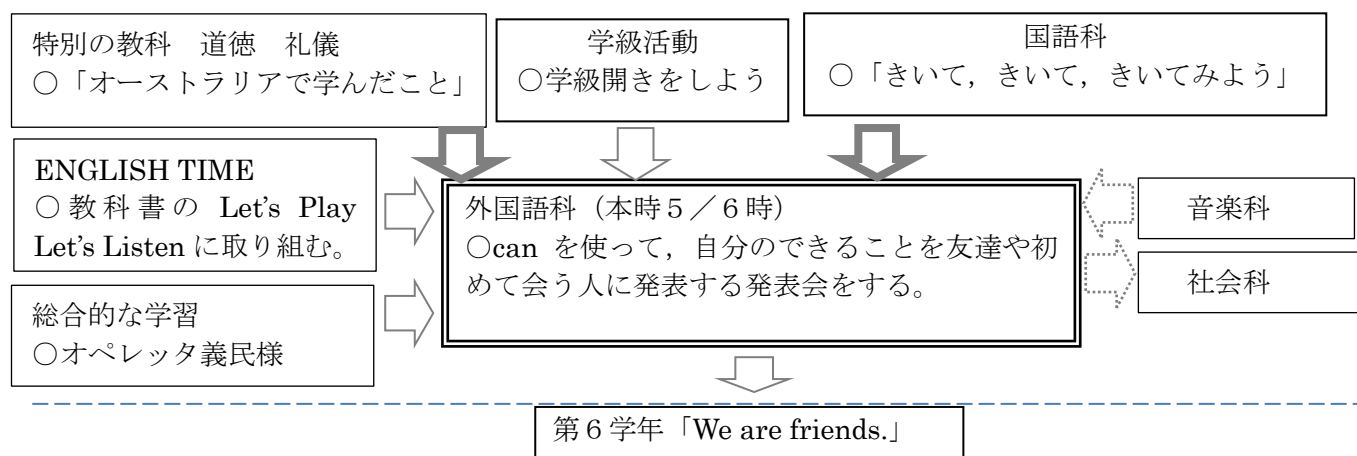
本時では、今年来られた先生方にカードや実物を使って、自分のできることを紹介する。これまでの自己評価とは異なり、第三者からの客観的な評価をフィードバックしてもらうことで、自分を知り、次時に向けてさらに自己調整しようとする姿を期待する。

3) について

本単元のねらいは、カードや実物を用いた、自分のできることを紹介することである。しかし、本学級は少人数で互いのことをよく知っているため、必然性が乏しい。そこで、今年来られた先生方に紹介をするという単元ゴールの言語活動を設定することで、児童の意欲を喚起する。今もなお、人との接触が制限されている児童らにとって、新しい出会いは、新鮮で興味をひくものと思われる。自分たちのできることを伝え、それを実際に披露するという単元を組み立てることで、英語で自分のことを紹介する活動に必然性をもたせる。また、紹介の相手を友達から指導者、そして今年来られた先生方と広げていくことで、自分のできることを紹介する表現の定着を図るとともに、他者へ配慮したやり取りについての思考を高められるようにする。

本時は、単元ではゴールにあたる学習であり、実際に今年来られた先生方に発表をするということを経験する場面となる。友達同士でやり取りをした後、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるような中間交流ができるようにしたい。また、今年来られた先生方とのやり取りの後で、先生方から評価を返してもらうことで、今後の学習に向けてさらに自己調整していこうとする姿が見られるようにしたいと考えている。

7 関連構想図



8 本時案

(1)本時のねらい

- ・ 自分のできることを、can を使った表現で発表することができる。
- ・ 相手に自分のことをよく知ってもらうための工夫について考え、英語によるコミュニケーションの楽しさを味わうことができる。

(2)展開

学習活動	教師の指導・支援(●HRT, ■ALT)	学習評価
<p>1 Greeting</p> <p>2 Warm up 「ジャスチャーゲーム」</p> <p>3 Review Demonstration</p>	<p>●■英語であいさつをした後、気分や天気、曜日、日付、好きなものなどについて尋ねることで、日常的に使える英語表現に慣れ親しむことができるようにする。</p> <p>●スポーツを4つ提示し、どのスポーツが1番できそうか、ジェスチャーで伝え合い、同じグループを作る。そうすることで、何とかして伝えてようとする力につなげる。</p> <p>●■できたグループで、一人ずつできるスポーツを発表し、答え合わせをすることで、「I can～」の表現に慣れ親しむことができるようにする。</p> <p>■プロフィールカードを見せながら、自分のできることを紹介するデモンストレーションを見せることで、本時のめあてをつかむことができるようにする。</p> <p>●Hello. My name is Sho Matsushita. Nice to meet you. ■Hello .My name is Nolita Sugimura. Nice to meet you too. ●I like baseball. I can play the organ. ■Oh really? ●Please look at me. ▲Waw! That's good. ●Thank you.</p> <p>●どんなことが分かったか話し合うことで、内容のたいたいをつかむことができるようにする。</p> <p>●自分が「自分のできることを紹介する時に大切にしたいポイントや、必要な工夫を出し合うことで、本時のめあてをつかむことができるようにする。</p> <p>[気付かせたいポイント] ・始めと終わりの挨拶 ・can を使う ・リアクション ・実際にやってみせる</p>	
<p>4 Aim</p>	<p>Aim 自分のできることを友達や今年来られた先生方に発表しよう。</p>	
<p>5 Activity ・発表会練習①</p> <p>・中間評価</p>	<p>●My Aim として、本時でアップさせたい力をカードに書いておくことで、自ら学ぼうとする意欲を引き出すようにする。</p> <p>●■二人組で、実物、プロフィールカードを使って「自分のできることを紹介する練習をすることで、英語でのやり取りを楽しみ、発表会に生かすことができるようにする。</p> <p>●単元のゴールを想起させ、今年来られた先生方に楽しんでもらう発表会にするには、さらにどんなことが必要か尋ね、工夫を話し合う。</p>	<p>◇自分のできることを表す表現について理解している。〈行動観察〉</p> <p>【知・理】やりとり</p> <p>◇プロフィールカードのアルファベット</p>

<p>・発表会練習②</p> <p>・発表会</p> <p>6 Comment time</p>	<p>[予想される内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際にやってもらう ●■二人組で、「Let's do it together」を取り入れるタイミングを考え、参観者も楽しめる発表会になるようにする。 ●■困っているペアにアドバイスをする。 ●二人一組で参観者に発表をすることで、友達とアドバイスをしながら活動できるようにする。 ●■児童を称揚しながら観察し、新しい表現に慣れていない児童に、発音を支援したり使いやすい表現を促したりする。 ●参観者から、評価をしてもらい、アドバイスをされることで、自分自身を知り、自己調整力を高めることができるようにする。 ●ふりかえりカードに my Aim の達成度を記入し、単元を通して高められた力を実感することができるようにする。 ●本時の学習で新たに学んだことや今後生かしていきたいことを記述することで、学びに向かう力を高められるようにする。 	<p>を読んだり、発表に必要な表現を使うことができたりしている。〈行動観察〉</p> <p>【知・理】読むこと やりとり</p> <p>【思・判・表】 やりとり</p> <p>◇can の表現を用いて発表をしている。 〈行動観察〉【主】 【知・理】やりとり</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のできることを初めて会う人に伝えることができてよかった。 ・緊張したけど、実物を使って発表をすると、楽しく発表できることがわかった。 ・can を使って発表できた。もっとすらすらと発表できるようにしたい。 		
<p>7 Greeting</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■発音に関してよかったことや気になることを伝え、英語表現の理解を深められるようにする。 ●伝えようとする気持ち、相手との関わりを大切にすることを気持ちに今後も気を付けていくように伝え、より楽しく今後の新しい英語表現に触れていくことができるように声掛けをする。 ●気持ちのよいあいさつをすることで、次時への意欲を高めることができるようにする。 	

(3) 板書計画

<p>Goal</p>	<p>自分のことを今年来られた先生方に紹介しよう。</p>
<p>Aim</p>	<p>自分のできることを先生方や友達に発表する発表会をしよう。</p>
<p>ポイント</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・初めと終わりのあいさつ ・can を使う ・リアクション 「oh really?」 ・実際にみってもらう 「Please look at me.」 	<p>さらに楽しく！</p> <p>やってもらおう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Let's do it together ! ・ Good !

